

第9章 研究のまとめ及び今後の課題

本研究では、職業前訓練の場における知的障害者に対する労働安全教育の方法等について検討を行った。また、研究成果として「職業前訓練における知的障害者の労働安全教育マニュアル(案)」を作成した。マニュアル(案)に記載した事項は、どのような職場でも共通して必要とされる事項であり、また、職業前訓練の場でも指導出来ると考えられるものについて取り上げてある。

労働安全は、実際の生産現場である事業所での総合的な安全管理体制の下で確保されるものであり、作業員に対する労働安全教育だけで解決出来るものではない。また、労働安全は、作業員が実際に従事する作業との関係で問題になるものであり、就職前の、特定の作業と関係しない訓練の場における労働安全教育というものは本来存在しないものである。しかしながら、知的障害者の場合には、本研究における調査にも示されたように、健常者に比べて危険に対する意識が弱い部分があり、そのままの状態では職場に入ることに不安が感じられることから、職業前訓練においても労働安全教育は必要であると言えるだろう。

職業前訓練の場における知的障害者の労働安全教育は、安全の大切さについて意識し、考えようとする態度を身につけることであると考えられる。作成したマニュアル(案)に記述してある事項を実施した場合、実際には特別な技能が身につくというわけではない。むしろ、それらの安全についての活動を行う中で労働安全の大切さが訓練を受けている知的障害者の意識に残ることが重要であると言える。

本研究での考え方は、はじめに職業前訓練の場で行う労働安全教育は何かを検討し、次に、安全に関する指導事項を知的障害者に指導する場合の留意事項等について検討する、という手順によって進められている。具体的な指導内容等を明らかにすることを主目的にしていることから、知的障害者の障害特性と労働安全の関係に関する基本的な考え方等についてはほとんど検討されてはいない。そこで、知的障害者と労働安全に関して、今後の研究の展開としては以下のことが考えられる。第1に、知的障害者の特性と安全との関係を詳しく検討した上で、安全管理の手法を確立する必要がある。労働安全は基本的に事業主の責務であるとされていることから、知的障害者の労働安全の確保ということを目的とする場合、最も重要なことは、知的障害者の労働の場である事業所において、いかに安全管理を行うかを検討し明らかにすることであろう。本来、労働安全の問題は、機械、電気、化学物質等の各種の危険性への対処、作業設備の安全化、ヒューマンエラーの問題、安全管理組織のあり方等、非常に幅が広い問題であり、知的障害者の安全管理のあり方についてもこれらの様々な視点から総合的に考えるべき問題である。事業所における知的障害者の安全管理の手法を体系的に明らかにすることが出来れば知的障害者を雇用する事業主の安全面に対する不安感をかなり軽減できるものと考えられる。

第2に、知的障害者の安全意識に関する評価方法を開発する必要がある。本研究は安全教育の指導内容に力点が置かれており、指導結果としてどの程度の効果があったのかを評価する方法等に関しては十分な検討が行われていない。企業等で一般的に行われる安全教育では、受講者に学習内容をレポートに

まとめさせたり、テスト形式で書かせたりといった方法が一般的である。しかし、知的障害者の場合にはそのような方法は適切ではなく、具体的な行動の観察や測定を通して評価を行う方法等を開発することが必要であろう。

次に、本研究では職業前訓練における労働安全教育について検討を行うことを目的としているが、事業所における知的障害者の安全対策について、本研究の過程で入手した資料の範囲内で、意見を述べる。

労働省・身体障害者雇用促進協会（1982）は、障害者の安全管理の状況等について事業所に対する調査を行い、事業所での知的障害者の安全対策について述べている。そこでは、（文献中の「精神薄弱者」は「知的障害者」と読み替える）危険有害場所への立ち入りの制限、安全作業についての指導、機械類の取扱いの指導援助、機械類との接触の防止、という内容について主として述べてある。そして、このことに、本研究の過程で得られた資料も合わせて考えると、事業所における知的障害者の労働安全を図るための視点を、以下の4点にまとめることが出来るものとする。

(1) 作業そのものに関する安全化と指導

当然のことであるが、まず知的障害者が直接担当する作業の安全を考える必要がある。この場合、作業手順が本人に理解できるかどうか、身体能力的に無理がないかどうか、また、動力機械などを使う場合に作業の仕損じなどがあってもそれが危険につながらないかどうか、等の事項を十分考慮することが必要である。また、本人に対しては正しい作業動作（作業手順）が身に付くよう指導を繰り返すことが必要である。

(2) 作業環境に関する安全化と指導

本人自身が担当する作業が安全であっても、工場内の別の場所では危険性がある機械が稼働していて、それに知的障害者が接触してけがをする可能性は十分考えられる。そこで、知的障害者が働いている事業所全体としてどこにどのような危険性があるかを確認し、対策をとる必要がある。この場合の危険性とは大まかには、①機械的危険性、②電氣的危険性、③化学的危険性、④場所的危険性（墜落、転倒等の危険性がある場所）に分類できる。そして、そのような危険性がある場所には立ち入らないこと（工場内での行動範囲を制限する）、担当以外の作業を行わないことを指導し、一方、可能であれば危険性がある機械等に防護物を取りつけるなどの対策をとるようにすることが望ましい。

(3) 事故等の報告の徹底

知的障害者が直接担当する作業について安全化が図られ、また周囲の作業環境に関しても安全対策が取られたとしても、なお考えられる災害の可能性として、事故等の普段と違うことが起きた場合の不適切な行動による危険性がある。これは第3章においても述べたように、例えば「故障等を自分で直そうとして災害に遭う」という形の災害が考えられる。作業中に機械の故障等の普段と違

うことが起きた場合や異常を発見した場合には、知的障害者本人が対応するのではなく必ず担当者に報告するように指示を徹底しておくことが必要と考えられる。特に、知的障害者が担当している作業や作業場所において、機械の故障等の事故が発生するとすればどのようなことが起き得るのかを予め想定し、そのような場合には必ず報告をするように具体的に指示をしておくことが大切である。

(4) その他一般的な労働安全教育の実施

知的障害者については、健常者に比べて危険性に気付きにくい、あるいは危険な物を知らない者が少なくないため、整理整頓や服装、通行に関すること、運搬の仕方等についてしっかりと指導を行う必要がある。

<引用文献>

- 大南英明『社会人になるためにーあしたへのステップ』教育図書株式会社, 1997.
- 加藤多慶夫『安全衛生実践シリーズあなたの職場の4S』中央労働災害防止協会, 1997.
- 鎌形剛三『安全衛生実践シリーズ あなたのヒヤリ・ハット KY (危険予知)』1996.
- 障害者職業総合センター『日本の障害者雇用の現状ー平成5年度 身体障害者等雇用実態調査 (労働省) からー』1996.
- 身体障害者雇用促進協会・聴覚障害者前教育資料開発委員会『みんなで守ろう職場の安全ルールー新しく作業につくみなさんにー』1985.
- 身体障害者雇用促進協会・聴覚障害者安全教育資料開発委員会『安全な取扱運搬作業の進め方』1987a.
- 身体障害者雇用促進協会・聴覚障害者安全教育資料開発委員会『機械工具による手と指のけがを防ぐには』, 1987b.
- 田辺肇 (著)・大西三朗 (画)『絵本 新入社員の安全ガイド10則ー佐藤君の一日ー』中央労働災害防止協会, 1993.
- 田辺肇『テキスト危険予知入門』中央労働災害防止協, 1995.
- 千葉県教育庁学校教育部指導課『高等学校産業教育指導資料』1991.
- 千代田火災海上保険株式会社・株式会社ニューセンチュリービジネス『労働災害 ヒューマンエラーと安全対策』1992.
- 中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ ズバリみんなの安全衛生パトロール』1989.
- 中央労働災害防止協会『改訂新入者安全衛生教育ー指導者用ー』1990.
- 中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ ズバリこうしてなくせるはさまれ 巻き込まれ』1992a.
- 中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ 1 ズバリ腰痛撃退法』1992b.
- 中央労働災害防止協会『絵本 新入社員の安全ガイド10則 佐藤君の一日』1993.
- 中央労働災害防止協会『安全用語辞典』1994.
- 中央労働災害防止協会『あなたの職場の安全ガイドー災害ゼロへのポイント50ー』1996a.
- 中央労働災害防止協会『全訂新版ゼロ災運動推進者ハンドブック』1996b.
- 中央労働災害防止協会『危険予知活動トレーナー必携』1996c.
- 中央労働災害防止協会『安全衛生年間平成9年版』1997.
- 中央労働災害防止協会『改訂新入者安全衛生テキスト』1998a.
- 中央労働災害防止協会『1998総カタログ (安全衛生図書、用品、ポスター)』1998b.
- 手をつなく親の会『自立生活入門ハンドブック「ひとりだちするあなたに」』1992.
- 日本障害者雇用促進協会『不安全行動と災害ー労働災害は何故起きたー (ビデオ)』株式会社 PRC, 1986.
- 日本障害者雇用促進協会『地域障害者職業センター業務運営手引き』1995.
- 西島茂一『安全衛生実践シリーズ 不安全行動災害ゼロへの挑戦』中央労働災害防止協会, 1995.

西島茂一『これからの安全管理』中央労働災害防止協会, 1996.

緑十字協会『始めようシリーズ No. 4-KYT シートのつくりかた』中央労働災害防止協会, 1995.

森田 福男『管理・監督者の作業管理のための安全作業標準の考え方作り方』株式会社日科技連出版社, 1990.

森田 福男・谷村 富男『監督者・リーダーのための安全衛生の考え方進め方』株式会社日科技連出版社, 1994.

文部省『作業学習指導の手引き改訂版平成7年度』東洋館出版社, 1995.

リクルート映像『安全こそ全ての基本－労働災害防止の原則－』1989.

労働基準調査会『安全衛生チェックリスト集 職場点検マニュアル』1990.

労働省安全衛生部安全課(編)『安全管理者の実務』1997

労働省・身体障害者雇用促進協会『昭和56年度調査研究報告書－No. 1通刊第66号 身体障害者の職場における安全対策(Ⅱ)』1982.

労働省・日本障害者雇用促進協会『平成4年度研究調査報告書－No 2 通刊第180号 重度障害者多数雇用事業所における雇用管理上の諸問題に関する研究調査報告書』1993.

労働省労働基準局『平成七年度労働者災害補償保険労働災害統計年報』1995.

横浜市福祉局『障害者の雇用に関する企業意向調査』1995.

<参考文献>

中央労働災害防止協会『新／職長の安全衛生手引』1989.

中央労働災害防止協会『全国産業安全衛生大会研究発表集(1996・広島)』1996.

中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ ズバリ職場の上手な報・連・相』1992.

中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ ズバリ安全作業の常識』1992.

中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ ズバリこうしてなくせる切れ こすれ』1994.

中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ ズバリ整理整頓』1995.

中央労働災害防止協会『ズバリシリーズ ズバリこうしてなくせる墜落・転落・転倒』1996.

中央労働災害防止協会『ゼロ災実践シリーズ1 危険予知訓練』1997.

中央労働災害防止協会『最新 日本の労働安全衛生マネジメントシステム』1998.

労働省・身体障害者雇用促進協会『昭和55年度研究調査報告書－No. 1(通刊第47号)身体障害者の職場における安全対策』1983.

労働省・身体障害者雇用促進協会『昭和57年度調査研究報告書－No. 1 通刊第75号 身体障害者の職場における安全対策(Ⅲ)』1983.

労働省・身体障害者雇用促進協会『平成4年度調査研究報告書－No. 2通刊第180号 重度障害者多数雇用事業所における雇用管理上の諸問題に関する調査研究報告書』1993.